



あすなろ

食べる

登別市立幌別東小学校長 猪子 雅司

先日出張の際に乗った特急列車の中にJR北海道の広報誌が置かれていました。広報誌の中には北海道出身の作家 小檜山 博（こひやま はく）氏が寄せた「お米の話」というエッセイが掲載されていました。エッセイは次のような展開で進んでいきます。

1 私は米が好きだ。

1 年中、毎朝卵かけご飯を食べているほどだ。

2 日本人はあまり米を食べなくなってきている。

日本人が食べる米の量は50年前は120kg、現在は40kgにまで減った。

3 米は安い。

茶碗1杯のご飯の価格は約30円、茶碗2杯ずつ1日3回食べて180円。

4 米の価格が上がっていない。

戦後、勤め人の給料は64倍になった。しかし米の値段は19倍にしか上がっていない。

5 農業人口が減少した。

その結果、農家の収入は上がらず、廃業してしまう農家が多くなった。以前1000万人もいた農業に携わる人が、今は165万人、全人口のたった1.5%でしかない。

6 食料自給率が低い。

日本の食料自給率は現在38%、62%の食料を外国からの輸入に頼っている。人口の1.5%の農業人口で、1億2千万人の食はまかなえない。

7 食べることに無関心。

食べるという行為は生きるためには絶対に必要だ。でもそれを支える農家は減っている。食べること、食べ物についてみんなで考えなければならないのでは。

前号のこの欄にも書きましたが、ものをつくり、つくったものの対価でお金を得るとするのは、至極まっとうな稼ぎ方と私は考えています。そのため上にご紹介したエッセイの農家のお話についてもずいぶん考えさせられることがありました。

ここ数十年で私たちの食生活はずいぶん多様化しました。主食は米以外にも、パン、麺類など数多くありますし、主食以外のおかず、肉・魚・野菜なども目移りするほど多くの種類があります。

その一方食べる物の生産の多くを日本は海外に依存しています。私を含め、「米は食料自給率100%なのでは？」という疑問をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、米もすでに100%の自給率ではなくなっていました。令和4年度の統計（「食糧需給表」農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室）を見ると、国内で100%以上の食料自給率を達成している主要な作物は温州ミカンくらいとなっています。

食べることは人間が命をつなぐには欠かせない行為であり、決しておろそかにしてはいけない行為だと私は考えています。その食べることにつながる仕事、農業・漁業もこの世の中に欠かすことのできない職業であると私は考えています。

ただ、その職を支える農業や漁業を営む方々は多くの困難に直面しています。その一つが仕事の大変さに見合った収入が得られないことによる後継者不足です。農家はつくったものを収穫して収入を得るわけですから、それまでの長期にわたる土づくり、水やり、害虫除去、温度管理をしている期間には収入を得ることができません。収穫したものについても、大きさや形、色や傷などを厳しく検査され、売り物にならないものの多くは廃棄されてしまいます。上で述べた食料自給率の低さを考えた時に、廃棄すること自体にもやもやとした気分にもなりますが、それらを含めた多くの手間や作業量を考えて時に販売されている食物の価格が果たして適正であるのだろうかという疑問に感じることにも少なくありません。

北海道の食料自給率は農水省の都道府県別統計でみると220%あまりと国の食料自給率を大きく上回っています。そのような恵まれた場所で暮らす私たちですが、食べる物を作ってくれている方々について考える機会がどれだけあるのでしょうか。日本の食糧基地といわれる北海道に住む私たちは身近な農業や漁業にもっともっと関心を持つ必要があるのではないのでしょうか。

実際、前述の小檜山さんのエッセイの中に都会に住む孫娘が農家を営む祖父に「おじいちゃん、お米のなる木ってどれ？」と尋ね、祖父が絶句する場面や、精米した米を植え、水やりや肥料をあげているのに芽が出ないと、市役所に相談してくる主婦の話が紹介されていました。そのような例からも、自分が食べているものがどのようにつくられているかに興味を持ち、知ろうとしないと、それをつくってくれている人たちの苦勞にも思いは及ばないのかもしれない。

食料自給率の低さや、農業人口の減少は大変大きな問題であり、一朝一夕に解決できるような問題では決してありません。ただ、その解決に近づくはじめての一步として、食べることで自分が食べているものに興味を持ち、つくってくれている人たちへの尊敬の念と、価格や安全性についての正しい知識を持っておきたいものだと感じました。

小学校では生活や総合、理科などで作物を育てたり、5年生の社会では農業や漁業について学んだりしています。そんな子どもたちを含め、保護者や地域の皆様に提案です。ご家庭の食卓に上がるもの一つ一つに思いを寄せ、食事の際の話題にし、つくってくれている方々に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

宿泊学習に行ってきました！！

5年生の子どもたちが9月7日（木）、8日（金）にふおれすと鉱山へ宿泊学習に行ってきました。

1日目は、ウォークラリーで森の中を歩いてクイズの答えを考えたり、川に入って生き物を探したりしました。天気も良く、川の水も気持ちよかったです。そして、夜になるとナイトウォークをして、動物の声に耳を澄ましたり、コウモリの飛ぶところを見たりと普段できない体験をしました。2日目は、森の生き物を見つけたり、鉱石を割って中の鉱物を見つけて歓声を上げたりしました。初めから最後まで、いろいろなことを頑張ってみようと思っていた5年生の姿をたくさん目にすることができました。これからの学習や行事にも生かしくことと思っています。



登別市全市一斉防災避難訓練

9月9日（土）に、登別市全市一斉避難訓練がありました。子どもたちは各家庭から保護者の方や連合町内会の皆様と一緒にスムーズに避難することができました。ご協力ありがとうございました。



熱中症対策～ご協力ありがとうございます！

9月も終わりを迎え、やっと暑さもやわらぎましたので、冷却グッズやスポーツドリンクの持参につきまして、9月29日（金）までの対応といたします。ご協力ありがとうございました。

前期終了～通知表を配付します（10月2日）

10月2日（月）に前期の通知表（東っ子のあゆみ）を配付します。ご家庭でも、今期お子様が頑張ったところを十分に認め、習得が不十分なところは具体的にどのように頑張れば良いのか一緒に考え励ましていただくようお願いいたします。通知表が、子どもたちにとって、さらに力を伸ばすよい手立てとなるよう活用していただけると幸いです。

温泉入浴体験（3年生）

9月20日（水）に3年生の子どもたちは市内の温泉入浴体験に行ってきました。登別酪農館を見学して牛乳ができるまでを教わったり、地獄谷を散策して、においや噴火した鉱石の色に驚いたり、いろいろな体験をしました。温泉にもゆっくりつかり、「気持ちよかった～」と学校に帰ってきました。



☆10月行事予定☆

日	曜	給食	学校行事
1	日		
2	月	○	前期通知表配付日 個人懇談① B日課5時間授業 鬼っ子フォーラム事前ワークショップ 15:00～16:00
3	火	○	スクールカウンセラー来校 個人懇談② B日課5時間授業
4	水	○	全校朝会
5	木	○	個人懇談③ B日課5時間授業
6	金	○	B日課6時間授業
7	土		
8	日		
9	月		スポーツの日
10	火	○	個人懇談④ B日課6時間授業 就学時健診
11	水	○	
12	木	○	就学時簡易テスト B日課5時間
13	金	○	持久走記録会 B日課6時間授業 市P連子育て研修会教育講演会
14	土		
15	日		
16	月	○	学習発表会特別時間割開始 街頭指導・下校時巡回 安全点検 スクールカウンセラー来校
17	火	○	舞台芸術公演6年
18	水	○	
19	木	○	
20	金	○	
21	土		
22	日		
23	月	○	6時間授業（3～6年）
24	火	○	
25	水	○	教材費集金日～27日まで
26	木	○	学習発表会児童公開
27	金	○	
28	土	×	土曜授業③（ふれあいデー）学習発表会
29	日		
30	月	○	クラブ④
31	火	○	